

教科名	社会科	校種	中学校
-----	-----	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	社会（地理）	必	3	
2年	社会（歴史）	必	3	
3年	社会（公民）	必	4	

科目名 (教科名)	中学社会・地理的分野 (社会科)				
担当教員	船木 暢夫				
学年	1	時間数	3	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 世界及び日本地理の基本的知識を学ぶ。すなわち社会生活に必要な「常識的」な地理知識 (各国・各地の特徴・生産物・地形・観光地など) をしっかり知るとともに、高校以上の学習に繋がる学問的知識を得る。
2. 地理を通して、国内外の社会的問題を考える。とりわけ、環境・人口・途上国と先進国の経済的格差など、今後の世界の根源的な問題について考える。
3. 自ら地理に関する課題を探究していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	世界の姿 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・世界認識の第一歩として地球儀、世界地図の見方を学び、特徴ある国々を知る。 ・主な地形、気候区分を理解する。 ・世界の国々を、各地域別 (東アジアー東南アジアー南・西・中央アジアーアフリカ) について学ぶ。 ・各国の地形的特徴、生産物、観光地、日本との関係などと関連させて理解する。 (時機を見て、生徒による発表やテーマ学習を行う)
2学期	世界の諸地域 (続き) 日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々を、各地域別 (ヨーロッパ・ロシアー北及び中南アメリカーオセアニア) について学ぶ。 (時機を見て、生徒による発表やテーマ学習を行う) ・関連地域を通して過疎・過密、環境、自然保護などの問題を学ぶ。 ・日本の都道府県を、各地域別 (沖縄ー九州ー中・四国ー近畿) について学ぶ。 ・各地の地形的特徴、生産物、観光地などと結びつけて覚えていく。
3学期	日本の諸地域 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の都道府県を、各地域別 (中部ー関東ー東北ー北海道) について学ぶ。 <p>※上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合がある。</p>
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト＋ノート、提出物など平常点を加味して評価する。 <評価の割合> 定期テスト70%＋平常点30%	
教科書・副教材等	<教科書> 「中学生の地理」 帝国書院 <副教材> 「アクティブ地理」 浜島書店、「新編 中学校社会科地図」 帝国書院 <問題集> 「ワーク地理Ⅰ・Ⅱ 帝国書院版」 エデュケーションナルネットワーク	

科目名 (教科名)	中学社会・歴史的分野 (社会科)				
担当教員	糸永 佳正				
学年	2	時間数	3	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 日本・世界の過去に起こった事象を時系列に沿って、正確に把握する。
2. 歴史的事象を機械的に暗記させるのみではなく、なぜそのような事件が起こったのか、その結果どうなったのかを原因と結果でつなげることによって理解する。
3. 歴史的事象を現代までつなげていくことによって、過去の歴史が私たちに与えている影響について理解する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	歴史を学ぶにあたって 原始・古代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・人類の出現と文明のおこり ・日本の成り立ちと倭の王権 ・大帝国の出現と律令国家の形成 ・貴族社会の発展
2 学期	中世の日本と世界 近世の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の動きと武家政治の始まり ・揺れ動く武家政治と社会 ・むすびつく世界との出会い ・天下統一への歩み ・幕藩体制の確立と鎖国 ・経済の成長と幕政の改革
3 学期	近代の幕開け 近代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・近代世界の確立とアジア ・開国と幕府政治の終わり ・明治維新と立憲国家への歩み ・激動する東アジアと日清・日露戦争 ・近代の産業と文化の発展 <p>※3学期中に終わらない内容が出た場合は、中3で継続して学習する。また、上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合がある。</p>
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト+ノート、提出物 (レポート) など平常点を加味して評価する。 <p><評価の割合> 定期テスト約80%+平常点約20%</p>	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <教科書> 「中学社会 歴史 未来をひらく」教育出版 <副教材> 「新中学総合歴史」正進社 <問題集> 「ワーク歴史Ⅰ・Ⅱ 教育出版版」エデュケーショナルネットワーク 	

科目名(教科名)	中学社会 公民的分野・歴史地理(社会科)				
担当教員	糸永 佳正				
学年	3	時間数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

【公民的分野】

1. 現代社会における様々な事象を、一般常識として定着し、客観的に捉え、論理的な思考で認識・理解する。
2. 自らを一人の「公民」として自覚し、社会に積極的に貢献できる人材を目指す。
3. 自ら公民に関する課題を探究していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

【歴史・歴史地理的分野】

1. 中学歴史の続きを学ぶ。
2. 現代の国際社会の動きに注目しながら、高校世界史に必要な地誌を学習する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	【中2歴史の続き】 【公民的分野】 私たちと現代社会の関わり 個人の尊重と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び世界の現代史 ・現代日本のあゆみと世界との結びつき ・個人と現代社会 ・法に基づく政治と日本国憲法
2 学期	個人の尊重と日本国憲法(続き) 国民主権と日本の政治 消費生活と経済のしくみ 生産のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法と基本的人権 ・日本の平和主義 ・くらしに身近な地域の政治 ・民主政治と政治参加 ・国民の代表機関としての国会 ・行政権をもつ内閣 ・裁判所と司法権 ・民主政治を守るために ・くらしと経済 ・市場のはたらき ・生産と企業 ・金融とお金の価値
3 学期	財政と国民の福祉 国際社会と人類の課題 【歴史地理分野】	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人をめぐる問題 ・政府の仕事と財政 ・福祉の充実と生活環境の整備 ・国家と国際社会 ・地球環境と人類 ・高校世界史学習に繋がる世界地理学習
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト+ノート・提出物など平常点を加味して評価する。 <評価の割合> 定期テスト70%+平常点30%	
教科書・ 副教材等	<教科書>「中学社会 公民的分野」日本文教出版 <副教材>「新しい公民」浜島書店 <問題集>「ワーク社会中3 日本文教出版版」エデュケーショナルネットワーク	